

「アンドロゲンおよび RNA 結合タンパク質の神経変性疾患における役割」 に関する情報公開

当センターでは、東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方を対象に下記の共同研究を実施します。病理解剖の際に医科学研究への協力にご承諾をいただいておりますが、改めて本研究へのご協力を承りますようお願いいたします。

なお、本研究への協力を望まれない場合、あるいは研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ担当者までご連絡ください。

研究の名称

アンドロゲンおよび RNA 結合タンパク質の神経変性疾患における役割

研究責任者

東京都健康長寿医療センター研究所/システム加齢医学 専門副部長 高山賢一

研究の対象

2001年7月～2021年5月に東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断によりアルツハイマー型認知症と診断された方および顕著な疾患なしと診断された方。

研究の期間

倫理委員会承認後から5年間

研究の目的と概要

本邦での高齢者人口の増加に伴いアルツハイマー型認知症、パーキンソン病をはじめ神経変性疾患、認知症患者の増加はフレイルや介護などの社会的な問題につながっています。男性ホルモンであるアンドロゲンのシグナルはアンドロゲン受容体(AR)を介し核内におけるエピゲノム、遺伝子発現プログラムを制御する働きがあります。ARは脳、筋肉、脂肪、骨、生殖器など全身の臓器で発現し、アンドロゲンの加齢による血中濃度の減少は男性更年期を始め、認知機能の低下、筋力、骨量の低下によるフレイルや老年病の発症につながり、また女性でもアンドロゲン受容体が機能しており女性の健康においても重要です。

本研究では認知症、特にアルツハイマー型認知症においてアンドロゲンの下流シグナル、および制御因子となる RNA 結合タンパク質群に着目し、臨床検体を用いて神経におけるシグナル経路の病態における重要性を明らかにすることを目的とします。

研究の方法

東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクよりアルツハイマー型認知症患者及び対照となる症例の脳組織切片の提供を受け、目的タンパク質の抗体を用いて免疫染色を中心とした発現確認を行い、比較検討いたします。試料は匿名化されて東京都健康長寿医療センターから共同研究先である東北大学に宅急便で送られます。また組織より RNA やタンパク質を抽出し遺伝子発現解析を行います。

得られた研究成果は、個人の特定ができないようにした上で、国内外の学会や学術雑誌、データベース等で公表されます。

研究に使用する試料・情報

アルツハイマー型認知症および対照症例の脳組織切片及びそれに関連する情報

研究組織

研究責任者

東京都健康長寿医療センター研究所 システム加齢医学 専門副部長 高山賢一

共同研究者

東京都健康長寿医療センター研究所 システム加齢医学 部長 井上 聡

東北大学医学系研究科 病理検査学 教授 鈴木 貴

東京都健康長寿医療センター研究所 ブレインバンク 部長 齊藤祐子

お問い合わせへの対応

本研究に関するご質問や資料閲覧のご希望は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究計画書や研究方法に関する資料については、ご遺族の希望に応じて、他の研究対象者や研究者に不利益が及ばない範囲内で、ご覧になることができます。また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

システム加齢医学 高山賢一

電話 03-3964-3241 内線 4314 (平日 9:00~17:00)